

日本沙漠学会 2020 年度秋季シンポジウム・乾燥地農学分科会(CADAL)講演会

「今、沙漠環境はどうなっているの？」

～拡大それとも改善？ 気候変動は？ サバクトビバッタは？ 経済へのかかわりは？」

日時:2020 年 11 月 26 日(木)12:00～16:40

場所:北とぴあ・つつじホール (東京都北区王子 1-11-1 北とぴあ 3 階)

(詳細は講演会の案内)

趣旨

日本沙漠学会乾燥地農学分科会では、毎年乾燥地農学に関する講演会を開催しています。

本学会が設立された約 30 年前、地球環境問題は行き過ぎた工業開発に伴う公害問題、海洋汚染、有害物質の越境、温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、砂漠化、熱帯林減少、野生生物種の減少が重大な問題とされていました。当時、沙漠の面積は九州と四国を合わせたほどの面積が毎年拡大しているとされ、近い将来の食糧事情に大きく影響すると懸念されていました。

その後、「国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP)」は 25 回を重ね、「京都議定書」(COP3)や「パリ協定」(COP21)を採択しました。そして今、地球環境問題への対応は、あらゆる産業を取り込んだ持続可能な開発目標「SDGs、17 のゴール」として認識されています。その中で沙漠化は、「15. 陸の豊かさを守ろう」の中で生態系保全、森林回復などと併記される形で沙漠化対処が位置付けられています。

皆さんは、沙漠化という問題を最近目にすることはありますか？30 年間の議論を経て、沙漠化の脅威は軽減されたのでしょうか？貧困やエネルギーその他、沙漠化以外にも重要な問題が山積していることは否めませんが、沙漠化の現状が見えにくくなっています。単なる沙漠面積の拡大では測れない沙漠化の質的变化があるのかもしれませんが。

日本国内でも水害等の激甚災害が懸念されますが、世界に目を向けるとアマゾンやオーストラリア、アメリカで大規模な森林火災があり、サバクトビバッタが異常繁殖しています。これらの自然環境の異常な変化は我々の経済へも大きな影響を与えます。一方で、これらの環境変化や発生する災害への対策を考える際には経済活動を制限する可能性があることは、昨今のコロナ禍による経済活動への影響を見ても明らかです。

そこで今年度の講演会では、気候変動や環境変化を研究する先生方をお招きし、ご専門の分野の現状を知る機会にするとともにそれらが自然環境・社会活動に及ぼす影響を踏まえて、SDGs に含まれる沙漠化をどのように捉えどのように対処すべきか議論する場にしたいと思います。今年度の講演会は、沙漠学会秋季シンポジウムを兼ねて開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

■新型コロナウイルス感染に関する留意点

本講演会は、新型コロナウイルスの感染状況によっては、延期される可能性があります。11 月 12 日に最終決定をいたします。延期が決定された場合、既に参加申し込みされた方には、メールにてお知らせいたします。また、ホームページでもお知らせいたします。感染拡大防止のため、ご了承ください。

詳細は[沙漠学会 web](#)

講師

講師の方々のご紹介と、発表内容（現時点で CADAL が講師の方々に期待している発表内容ですので、変更やアップデートの可能性がります。）

講師の先生方の紹介		講演会企画・運営 CADAL のひとり言
秋田県立大学 生物資源科学部 准教授 石川 祐一 氏		今回の講演会は、沙漠化の現状と、その原因となる気候変動や生態系の変化、人による経済活動から沙漠環境の現在を把握し、議論したいというかなり大きなテーマです。講師の先生方のお話の前に、沙漠化や気候変動について基本的な情報を、わかりやすくご提供します。
鳥取大学 乾燥地研究センター 准教授 木村 玲二 氏		木村先生はリモートセンシングを用いて、荒廃した土地の面積についての長期間モニタリング研究を行っています。それによると、近年の全球の荒廃した土地面積は、大陸ごとに増減の差はあるものの、地球全体では減少しているようです。毎年、四国と九州程度の面積が沙漠化しているといわれてきましたが、少なくともこれまでの固定概念は通用しないようですね。沙漠化の現状はいったいどうなっているのか、ぜひ教えていただきたいと思っております。
(一財)気象業務支援センター 研究員 元 気象庁 気象研究所 気候研究部 部長 鬼頭 昭雄 氏		地球の気候変動は、沙漠化の状態に影響を与える最も重要な因子のひとつと考えられますが、正直なところ、ここ 10-20 年で、その現状や環境への影響（ここでは沙漠化）などが、どう変わってきたのか知りたいところです。鬼頭先生は IPCC 評価報告書に執筆者として参加しており、気候変動問題について最前線で長期にわたって従事されている重要人物です。気候変動の現状についてご講演いただき、複雑な沙漠化との関連性については、パネルディスカッションで議論していただければいいかと期待しております。

<p>元蚕糸・昆虫農業技術 研究所 研究室長 田中 誠二 氏</p>		<p>近年、バッタの大量発生による沙漠の農作物被害が大きな問題となっており、CADAL としても大変興味深い問題です。しかし、大雨によって沙漠地域が緑地化したことが発生の原因ともいわれています。田中先生には、サバクトビバッタの研究に長年従事されてきた経験と業績から、バッタの大量発生の現状と沙漠化や気候変動との関連性について、講演・議論していただけると大変嬉しく思っています。</p>
<p>MS&AD インシュアランスグループホールディングス 課長 浦嶋 裕子 氏</p>		<p>まさか CADAL の講演会で、保険会社の方にお話をいただける機会があるとは思ってもみませんでした。しかし、近年は自然災害による保険損害額は増加しており、MS&AD では、自然災害のリスクを低減するための、災害リスクの適切な評価や災害サポートサービスなど様々な活動を行っています。浦嶋先生のリスク評価や SDGs の観点から沙漠化や気候変動を見た場合、どのような講演と議論をしていただけるのか、大変興味深いです。</p>

講演会の案内

(1) テーマ

「今、沙漠環境はどうなっているの？ 拡大それとも改善？気候変動は？バッタは？経済は？」

(2) 主催

日本沙漠学会 乾燥地農学分科会

(3) 日時

2020年11月26日(木)

12:30～ 受付

13:00～17:40 講演

(4) 会場

北とぴあ・つつじホール (東京都北区王子1-11-1 北とぴあ3階)

URL https://www.hokutopia.jp/hall-guide/halls/tsutsuji_hall

タイムスケジュール

11:30～ 受付

12:00～12:05 開会の辞 森尾 貴広 氏(日本沙漠学会会長)

12:05～12:25 講師 石川 祐一 氏(秋田県大生物資源科学部 准教授)

12:25～13:05 講師 木村 玲二 氏(鳥取大学乾燥地研究センター 准教授)

13:05～13:45 講師 鬼頭 昭雄 氏((一財)気象業務支援センター 研究員、元気象庁気象研究所 部長)

14:00～14:40 講師 田中 誠二 氏(元蚕糸・昆虫農業技術研究所 研究室長)

14:40～15:20 講師 浦嶋 裕子 氏(MS&AD インシュアランスグループホールディングス 課長)

15:35～16:35 全体討論

モデレーター 石川 祐一氏(秋田県立大学生物資源科学部 准教授)

パネラー 木村 玲二氏、鬼頭 昭雄氏、田中 誠二氏、浦嶋 裕子氏

16:35～16:40 閉会の辞 平賀 義彦 氏(日本沙漠学会乾燥地農学分科会副会長)

参加申し込み方法

参加費無料

電子メールまたは FAX に、①氏名、②TEL、③FAX、④E-mail、⑤所属をご記入の上、事務局宛にお送りください。尚、当日の参加も可能です。

※ご提供いただいた個人情報はこの講演会の準備・運営のみに使用させていただきます。

～申込先～

[事務局](株)アースアンドヒューマンコーポレーション(担当：深井)

FAX : 018-872-1677

E-mail : owner-cadal@iijnet.or.jp

URL : <http://www.jaals.net/>

CADALとは

乾燥地農学分科会（CADAL: Commission of Agriculture Development for Arid Lands, The Japanese Association for Arid Land Studies）は、日本沙漠学会（The Japanese Association for Arid Land Studies）の分科会であり、乾燥地農学に関する研究の発展と理解の深化に寄与するとともに、関係機関・団体との研究上の交流を図り、「日本の農業関連技術を乾燥地・半乾燥地へ活用して、地球規模の食料増産につなげる技術の研究・開発を行いながら社会・経済を含めた地球の持続的な総合開発に貢献する」ことを目的としています。

[CADALへのリンク](#)

[日本沙漠学会へのリンク](#)